

テーマ スマホ時代を生きる君たちのために

講師 竹内和雄



1 授業の概略

高度情報化社会を生き抜いていく高校生とともに、ネットを切り口に、これからの生き方、考え方について考えます。確固たる正解があるわけではないので、それぞれ主体的に考えてもらいたい。最近では Unicef ともかかわっていますが、国際的な問題になりつつあります。

2 所属部・科等

環境人間学部

3 自己紹介

教育現場に 25 年（中学校教員 20 年，教育行政 5 年）いたあと，大学教員として 10 年目です。最近では文部科学省や総務省，内閣府などの有識者会議の座長，委員などや，各自治体の審議会等多くかかわっています。そういう状況なので，子どもを取り巻く環境について把握しやすい立場にいます。これまで，附属高校の一部の生徒（情報モラル等）と一緒に，国のフォーラムや NHK の番組づくりに関わっています。附属生と関わる方々は，附属生のレベルの高さに驚いています。

4 専攻分野

「困っている子どもへの対応方法」が専門。

5 研究内容

最近では「子どもとネット問題」「いじめ問題」に関わることが多いです。

6 附属高生にメッセージ

昭和から平成，令和と進んできています。社会から求められる人物像も大きく変わってきています。今回は，社会全体から高校生に何が求められているか，深く考えてみたいと思います。

題目「スマホ時代を生きる君たちのために」

兵庫県立大学環境人間学部

講師 竹内 和雄 先生

1 授業内容

(1) 概要

ネットを使う子どもや校種別暴力、不登校生徒の割合の変化とその背景、昭和と令和で出世できる人の特徴など、ネットに関する「常識」の変化を学べる話だった。また、先生が以前に関わられた、「人とつながるオフラインキャンプ」に関する話も聞かせていただいた。

(2) 具体的な内容

・子どもへのネット普及

自分の子どもにネットを使わせるという質問に対し、大半の人が小学生高学年、中学生のところで手をしたが、実際の街頭調査では図のようなデータが出ている。

右の図は、子どもがいつからネットを使い始めたかというテーマで行われた調査の結果を表したもの。BYOD（一人一台端末）の推進により、小学生は学校で必ずネットに触れることになるため、割合はさらに高くなると予想される。



・校種別暴力（校内・校外でのけんか、暴言など）と不登校

校内別暴力の件数について、以前は中学生が増加傾向にあったが、最近では小学生の増加傾向が強い。その背景として考えられるのがネットの普及で、オンラインゲームなどで言葉遣いが荒くなる人が増えたために増加したと考えられる。iPhoneが普及した2012年以降、中学生の不登校率が増加傾向にある。ネット依存の影響（コミュ力低下など）も考えられる。

・Society5.0の実現

2018年に総務省が公開したSociety5.0の動画について、当時は動画内での進化が革新的で、夢物語のようにも思われていた。それが近年の開発によって、音声検索や自動運転など可能になったことが増えた。非現実と思われていたことが現実になるという可能性が数年で生まれた。

・次の時代に求められる力

人工知能（AI）の進歩により、現在人間が行っている仕事（トラックでの運送など）が機械化されることで、人間に求められるスキルというものが変化しつつある。実際、日本の企業が求める人物像として、「誠実性」「コミュ力」「論理性」などのAIが苦手としていることが求められている。「リーダーシップ」も求められているがそれだけではなく、「フォロワーシップ」「サーバンドリーダーシップ」などリーダーを補助する役割としての力も求められている。

・オフラインキャンプとネット中毒

「人とつながるオフラインキャンプ」について動画を見せていただいた。ネットが原因で不登校になった人などが参加し、楽しいアクティビティを通し、リアルでの楽しさを伝えるという内容だった。だんだんとリアルの楽しさを学んでいき、キャンプの終わりの会で、今後の目標の発表の際には多くの人が、現状を変えるために前向きな姿勢を見せていた。



2 感想

中学一年生のとき、技術の授業の中でSociety5.0についての動画を見ました。当時自分が思ったのは、「こんなことが本当にできるの？」と疑問に思いました。それが今となっては技術が確立されていてと聞き、本当に驚きました。また時代の変化に応じて、社会に求められる力が変わってきており、そのための教育も変わってきているので、頑張っけて学んでいこうと思いました。

記録者 1年3組8番 佐野正悟

1年1組29番 矢村悠翔

